

第2回 KIBOW 熊本で1位・2位独占

山都町の次世代リーダーが活躍!! ～熊本地震からの復興へ向けた社会事業への取り組み～

平成29年4月15日(土)、グランメッセ熊本において「第2回KIBOW熊本」のプロジェクト発表会が開催されました。「KIBOW」は、東北大震災直後に発足した救援・復興支援プロジェクトで、これまで、被災地の復興支援や復興のために立ち上がったリーダー達への資金提供にも協力してきました。

今回約30人の応募者の中から書類選考で選ばれた10人のプレゼンターには、山都町からエントリーした2人も含まれており、それぞれが5分の持ち時間でプロジェクトにかける熱い想いを語りました。

審査は、小野泰輔熊本県副知事ら5人の審査員と来場者の投票により厳正に行なわれ、山都町のお2人が見事！1位・2位を獲得される結果となりました。



橋本龍生さん
(阿蘇草原研究会)

『阿蘇の草原保全型によるジャージー牛(雄牛)の肉牛化プロジェクト』
殺処分されてしまう雄牛を肉牛化し、阿蘇の草原で育て新たなブランド牛にしていくプロジェクトについて発表



八田祥吾さん
(株 山都でしか)

『「ヤマトカグヤ」プロジェクト』
山都町の竹資源を活かして竹の粉を使った農産物の生産や加工に取り組む活動を基に、山都町の様々な農林産物を活用し、夢と希望が溢れ、ワクワクする山都町を実現するためのプロジェクトについて発表

平成 28 年度熊本県たけのこ園経営管理コンクール表彰式

平成29年3月22日(水)山鹿市鹿北市民センターにおいて平成28年度熊本県たけのこ園経営管理コンクールの表彰が行われました。

このコンクールは竹林の園地化技術及び経営管理技術の向上を図り、たけのこの品質向上と生産量の増大並びに早堀たけのこの等の生産技術を向上させることにより、農家の経営安定を目的に年1回実施されています。

本町からは、農林水産大臣賞、林野庁長官賞に次ぐ1等賞に杉木 村山和子氏、2等賞に鎌野 佐藤健勝氏が受賞されました。

本コンクールが、竹林整備とともに生産量の増大につながるきっかけとなるように、次回も多くの方に参加いただきたいです。



一等賞 村山和子氏 二等賞 佐藤健勝氏

献茶祭

八十八夜(立春から数えて88日目の夜を指す)の5月2日に、山都町茶振興会による「献茶祭」が小一領神社にて執り行われ、山都町の茶の豊作と生産者の安全、そして全国茶品評会における上位入賞が祈願されました。

今年は低温の日が続き、萌芽が遅れましたが、品質の良いお茶が出来たとのことです。



味噌づくり楽しかったよ!

明光保育園の園児達が味噌づくり体験をしました。今年で6回目となる味噌づくりは、JA女性部下矢部班と川上光喜下矢部東部加工部長の指導・協力のもと、園児が大豆つぶしから樽に入れるまでの作業を行い、熟成後完成した味噌を同園の給食で利用するというものです。園児達は手に触れる感触やにおいなど味噌づくりの過程を楽しんでいました。



子供たちが3泊4日で創作ミュージカルに挑戦!

ミュージカルの物語、歌、踊りを子供たちが創作して演じる「山の都ミュージカルキャンプ2017」が旧大野小学校で行われました。山都町を拠点に活動している家族劇団「天然木」の指導のもと、町内外の小中学生27名の子供たちが参加し、最終日には創作したミュージカルの発表を行いました。



つつじの花に囲まれて

蘇陽地区柏の佐藤鐵典さん宅のつつじが綺麗に咲きました。佐藤さん宅では40年ほど前からつつじの庭園を造り始められ、最近では多い日で30人ほど町内外から見学に来られるそうです。見頃は4月の終わりから5月の始めの1週間程度とのことです。



「はばたく商店街30選」に馬見原商店街

中小企業庁が、地域の特性・ニーズを把握し創意工夫を凝らした取り組みにより、商店街の活性化や地域の発展に貢献している全国の商店街を対象として選定する「はばたく商店街30選」に、「馬見原商店街」が、選定されました。

馬見原商店街は、「馬見原まちづくり協議会(会長森川弘士)」が中心となって、景観に配慮した街並みづくりや豊かな自然景観と史跡や神社を巡るまち歩きイベントなど、商店街活性化事業に取り組み、「くまもと景観大賞」「歴史的街並み50選」に続く三つ目の勲章受賞となりました。



木製記念品を卒園児へ

3月上旬、「上益城地域林業・木材産業振興協議会(会長工藤秀一)」から町内の卒園児108名へ、「くまモン」を掘り込んだ木製のコースターが贈呈されました。

同協議会では、木の温かみなど木材のよさを体感し、木材への関心を深めるだけでなく、将来的に森林・林業や環境問題にも理解ある人間の育成(木育)を図るため、このような取組を毎年行っています。

コースターを受け取った子供たちは、絵の匂いを嗅いだり、木の手触りを楽しむなど、目を輝かせて喜んでいました。

